

第12回 2015年度実施(2014年度実績)環境行動計画アンケート調査結果概要

2015年10月1日

(一社)日本ツーバイフォー建築協会

[1] 調査概要

1) 調査目的

- ① 会員各社及び協会本部が、会員各社の環境課題への取り組みの実態を認識し、把握する。
- ② 「環境行動計画」(2011年度～2015年度)の目標達成に向けての協会として必要な行動を把握する。

2) 調査方法

- ① 調査対象
協会一種(A, B, C, D)正会員491社
2014年4月～2015年3月の実績
- ② 調査方法
対象会員会社へアンケート用紙をメール宅配便で配布し、FAXにて回収
- ③ 調査期間
2015年5月15日から6月20日まで
- ④ 2015年度 回収件数等 ()内は前年度実績

	配布数	回収数	回収率
第一種A正会員	16社(16)	11社(13)	69%(81%)
第一種B正会員	41社(45)	27社(35)	66%(78%)
第一種C正会員	121社(125)	38社(50)	31%(40%)
第一種D正会員	307社(303)	86社(73)	28%(24%)
総数	485社(489)	162社(171)	33%(35%)

<回収件数等の推移> ※D会員のうちの1社はリフォーム専門なので、新築の集計の対象外とした。

2014年度実施	489	171	35%
2013年度実施	491	173	35%
2012年度実施	474	164	35%
2011年度実施	478	203	42%
2010年度実施	470	124	26%
2009年度実施	491	108	22%
2008年度実施	483	97	20%
2007年度実施	493	135	27%
2006年度実施	521	165	32%
2005年度実施	529	152	29%
2004年度実施	534	161	30%

3) アンケートの集計結果について

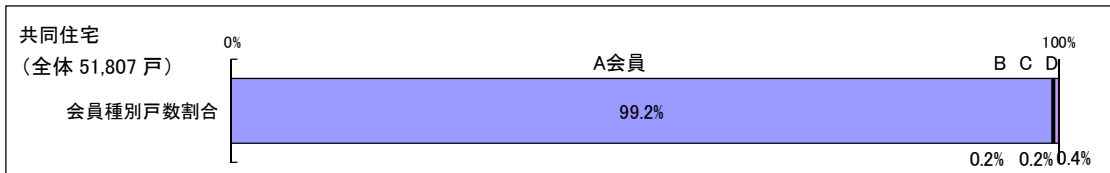
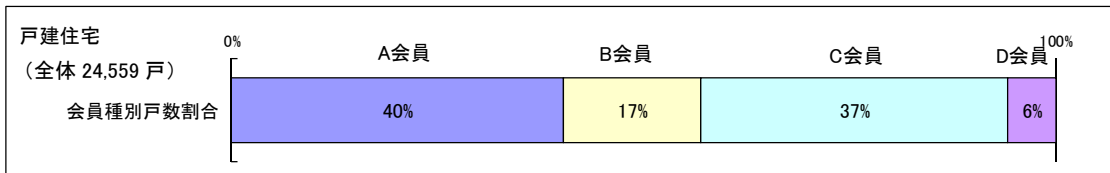
アンケートは、設問によって「戸数割合」または「企業数割合」で集計されます。

- ① 今年度の「戸数割合」の集計を会員種別（※）ごとの割合で示すと、次のようになります。

※会員種別の定義

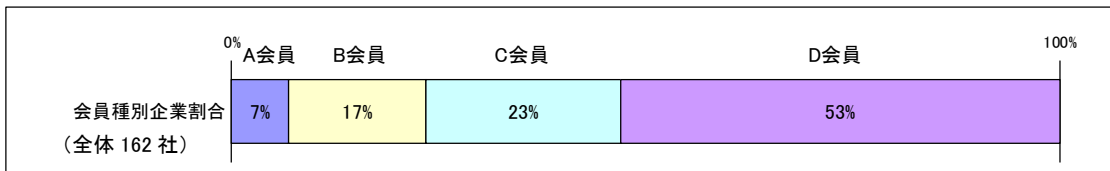
A 会員：年間着工戸数 500 戸以上、 B 会員：年間着工戸数 499 戸～50 戸

C 会員：年間着工戸数 49 戸～10 戸、 D 会員：年間着工戸数 10 戸未満



「戸数割合」（戸建住宅）の 57%が A・B 会員の動向を反映しています

- ② 一方「企業数割合」の集計を会員種別ごとの割合で示すと、次のようになります。



「企業数割合」では、76%が C・D 会員の動向を反映していることとなります。

目標設定が「企業数割合」の目標の中で、「戸数割合」の方が状況をより適確に反映している項目については、今回その割合も（参考）「戸数割合」として併記することとしました（戸建住宅のみ）。

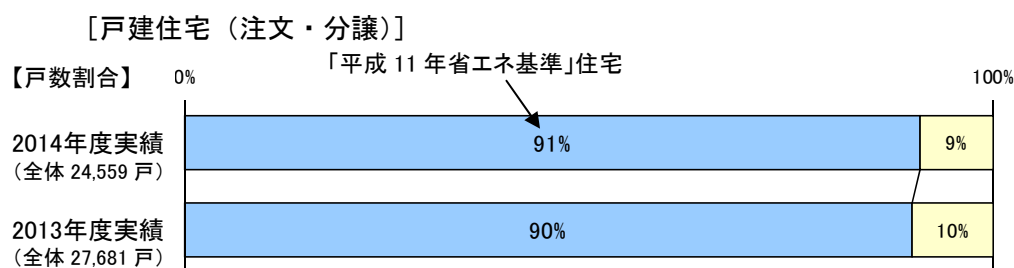
[2] 「環境行動計画」に対する取り組みの状況

I. 温暖化対策

1) 居住時・使用時のCO₂排出量削減に貢献する新築建物の普及

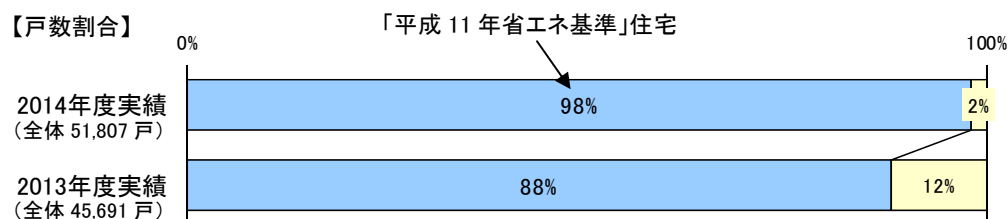
【目標1】「平成11年省エネ基準（次世代省エネルギー基準）」以上の省エネルギー性能を持った建物の普及拡大

供給総戸数に対する「平成11年省エネ基準」住宅の割合



※グラフに表示している%値は小数点以下四捨五入で表示していますが、グラフの幅は小数点以下の値も含めて作成していますので、同じ%値のグラフの幅が異なる場合があります。（以下全てのグラフ共通）

（参考）〔共同住宅〕（目標対象外）



		供給総戸数 (戸)	内、 「平成11年省エネ基準」住宅(戸)	割合(%)
2014年度 実績	戸建住宅（注文・分譲）	24,559	22,382	91.1
	共同住宅	51,807	50,879	98.2
	計	76,366	73,261	95.9
2013年度 実績	戸建住宅（注文・分譲）	27,681	24,928	90.1
	共同住宅	45,691	40,241	88.1
	計	73,372	65,169	88.8

【2015年度の目標】

戸建住宅での戸数割合（賃貸住宅を除く） 100%

【2014年度の実績】

戸建住宅での戸数割合は91%で、前年比1%増となっている。

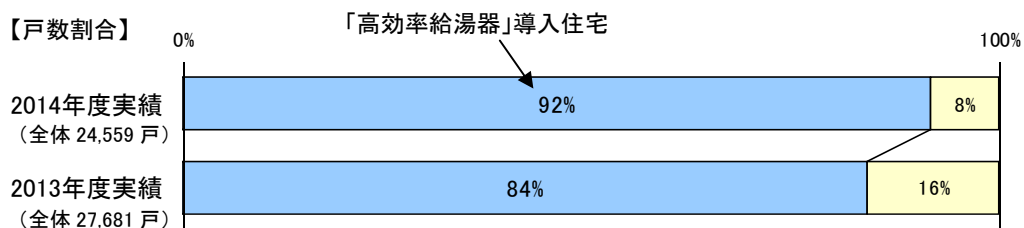
共同住宅（目標対象外）では、98%で、前年比10%増となっている。

【目標2】 熱効率の高い給湯器を導入した建物の普及

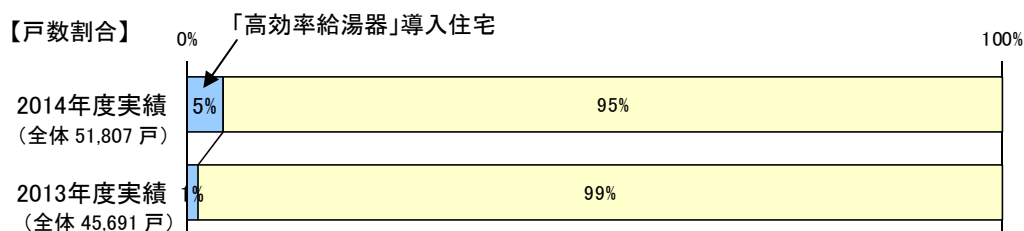
※熱効率の高い給湯器とは、
 エコジョーズ（高効率交換型ガス給湯器）、エコキュート（自然冷媒ヒートポンプ給湯機）、小型ガス
 スコージェネレーション（熱電併給装置）、その他給湯器（エコフィール、エコウィル、エネファ
 ーム等）をいいます。

供給総戸数に対する「高効率給湯器」導入住宅の割合

[戸建住宅（注文・分譲）]



(参考) [共同住宅] (目標対象外)



		供給総戸数 (戸)	内、 「高効率給湯器」導入住宅 (戸)	割合 (%)
2014年度 実績	戸建住宅（注文・分譲）	24,559	22,502	91.6
	共同住宅	51,807	2,354	4.5
	計	76,366	24,856	32.6
2013年度 実績	戸建住宅（注文・分譲）	27,681	23,212	83.9
	共同住宅	45,691	640	1.4
	計	73,372	23,852	32.5

【2015年度の目標】

戸建住宅での割合（賃貸住宅を除く） 100%

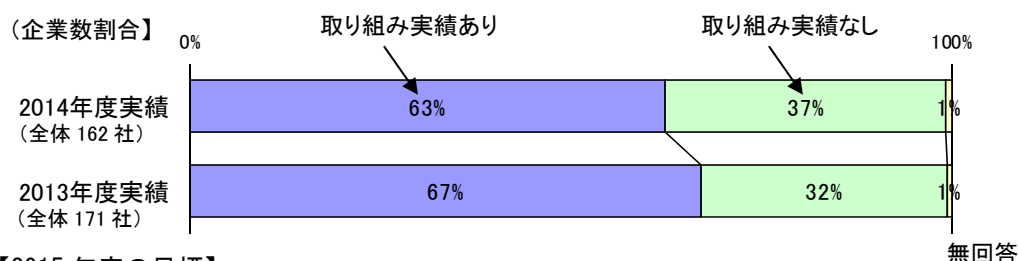
【2014年度の実績】

戸建住宅での割合は92%で、前年比8%増となっている。

共同住宅（目標対象外）では、前年比4%増となっている。

【目標3】自然エネルギー利用システムを導入した建物の普及

※自然エネルギー利用システムとは、太陽光発電システム・太陽熱利用システム（給湯利用・床暖房利用）・その他（風力、地熱、バイオマス、バイオガス等）利用システムをいいます。



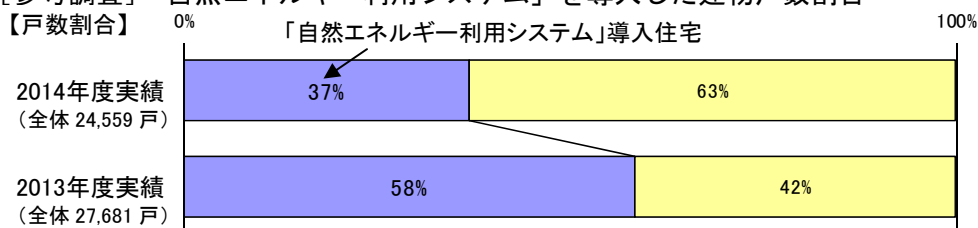
【2015年度の目標】

実績ありの企業数割合 100%

【2014年度の実績】

取り組み実績のある会社は63%と、前年比4%の減となっている。

【参考調査】「自然エネルギー利用システム」を導入した建物戸数割合

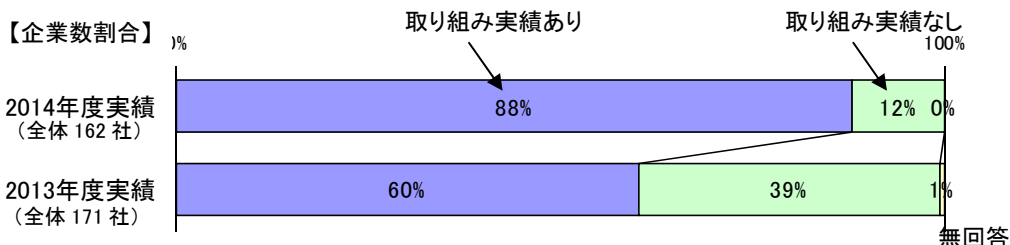


【2014年度の実績】

「自然エネルギー利用システム」を導入した建物は37%で前年比21%減となっている。

【目標4】住まい手・利用者への「省エネルギー建物の住まい方・利用のしかた」の啓発活動（以下のような活動）

- 啓発活動とは
- ・エコ給湯システム、エコジョーズ、LED照明、高効率エアコンの使用を勧めている
 - ・お客様との打合せスペースに、省エネに関する掲示をしたり、省エネに関する資料・本などを置いている。
 - ・協会HPにある「省エネ住まい方ガイド」を活用し、住まい手・利用者に配布し、啓発を行っている
 - ・その他の手引・資料を住まい手・利用者に配布し、啓発を行っている。
 - ・独自の手引を作成し、住まい手・利用者に配布し、啓発を行っている。



【2015年度の目標】

啓発活動実績ありの企業数割合 100%

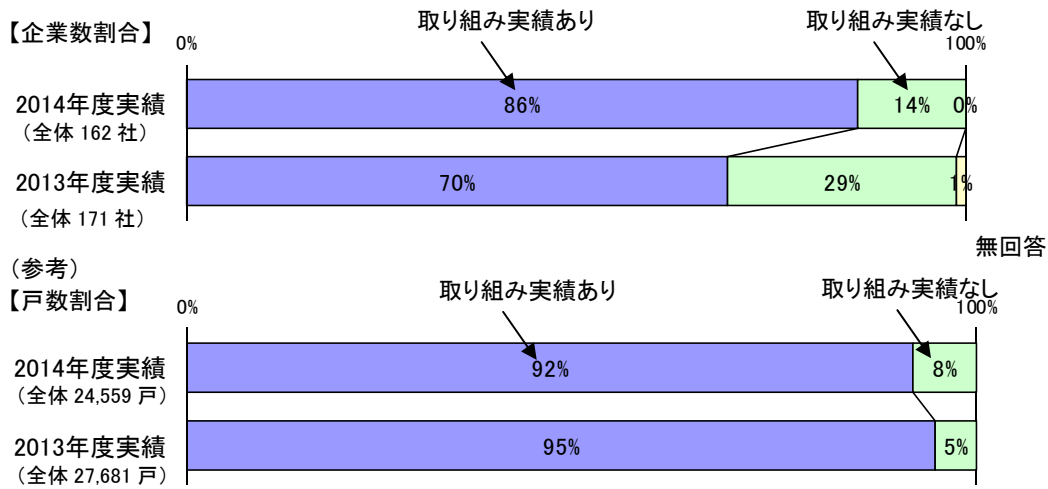
【2014年度の実績】

啓発活動実績のある会社は88%と、前年比28%の増となっている。

2) 事業活動時のCO₂排出量削減の取り組み

【目標1】建物建設時のCO₂排出量削減の取り組み（以下のような取り組み）

- 工期に関する項目
 - ・プレカットやパネル化などにより現場工期の短縮を図っている
- 作業員移動・建機移動・廃棄物輸送等車に関する項目
 - ・エコドライブ（アイドリングストップ含む）の推進
 - ・資材の一括納品、納入回数の削減等で輸送車両台数を削減
 - ・現場搬入量の適正管理
 - ・職方車両の制限、車両の乗り合いの実施
 - ・現場に行く回数、重複した動きの削減
 - ・業務車両台数の削減および低燃費車・低公害車への転換
- 電力消費に関する項目
 - ・現場での電気使用量の削減（LED 夜間灯、省エネコンプレッサーの使用等）
- 建機使用に関する項目
 - ・重機作業の合理化



【2015 年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

【2014 年度の実績】

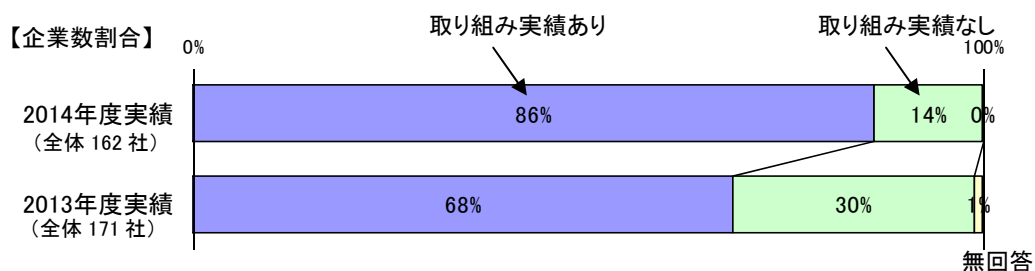
取り組み実績のある会社は 86%で、前年比 16%の増となっている。

戸数割合では 92%と、前年比 3%の減となっている。

【目標2】 オフィス・モデルハウス等でのCO₂排出量削減の取り組み

(以下のような取り組み)

- オフィス・モデルハウスの構造・設備に関する項目
 - ・ 建築物を高断熱とし、冷暖房エネルギーを削減
 - ・ 設備（空調、給湯、昇降設備等）に高効率のものを採用
 - ・ 太陽光・風力発電の導入
- 社員に対する取り組み
 - ・ クールビズ・ウォームビズ推進
 - ・ CO₂削減のための社員教育の強化
- オフィス・モデルハウスの機器等に関する項目
 - ・ LED等省エネ型照明への切り替えの推進
 - ・ エネルギー効率の高い事務用機器、家電機器（複写機／電算機／PC等）を採用
- 車両に関する項目
 - ・ 業務車両台数の削減および低燃費車を採用している
 - ・ エコドライブの推進（エコカー・カーシェアリングの活用含む）
 - ・ エコ通勤の推奨（公共交通機関、徒歩、自転車による通勤）
- オフィス・モデルハウスの使用方法に関する項目
 - ・ 不要照明の消灯を徹底（昼休み消灯、不在時消灯）
 - ・ 省資源化の推進（節水・ペーパーレス等）
 - ・ 不使用時の事務機器スイッチOFFの推進・エコモード使用の推進
 - ・ 空調温度の設定で省エネの取り組み



【2015 年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

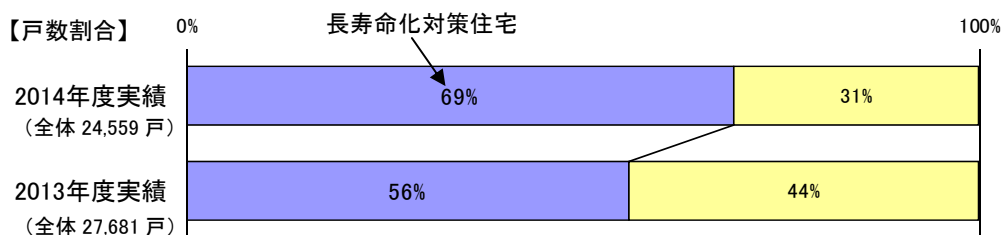
【2014 年度の実績】

取り組み実績のある会社は 86%で、前年比 18%増となっている。

3) 住宅の長寿命化の推進

【目標1】長寿命化対策（長期優良住宅、劣化対策、維持管理対策）を講じた住宅の普及

※長寿命化対策とは、
住宅性能表示制度の①劣化対策等級3相当、②維持管理対策等級3相当、③長期優良住宅の認定基準相当、④その他独自の耐久性技術を取入れた建物（防蟻剤：杓酸、高耐久シーリング、高耐久サ行`ィング`等）のいずれかをいいます。



		供給総戸数 (戸)	長寿命化対策を講じた住宅 (戸)	割合 (%)
2014年度実績	戸建住宅 (注文・分譲)	24,559	16,937	69.0
2013年度実績	戸建住宅 (注文・分譲)	27,681	15,423	55.7

【2015年度の目標】

戸建住宅での割合 80%

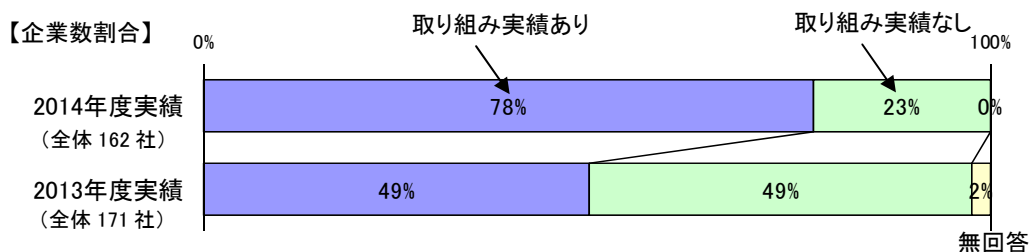
【2014年度の実績】

戸建住宅での割合は69%と前年比13%の増となっている。

【目標2】住宅の長寿命化のためのメンテナンス計画の実施

※長寿命化のためのメンテナンス計画とは、
長期にわたり良好な状態で使用するためには、定期的な点検と必要な補修・交換が必要となります。それを促進するための社内体制と定期点検の実施計画のことをいいます。

- ・定期点検を行っている（少なくとも10年ごとの点検）
- ・地震時及び台風時に臨時点検を行っている
- ・定期的な点検の時期や内容（補修の計画）を策定している
- ・メンテナンスができる体制の整備
- ・メンテナンス計画の作成
- ・躯体の耐久性の長期保証システムの整備



【2015年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 80%

【2014年度の実績】

取り組み実績のある会社は78%と、前年比29%増となっている。

Ⅱ. 資源の活用

1) 森林資源調達

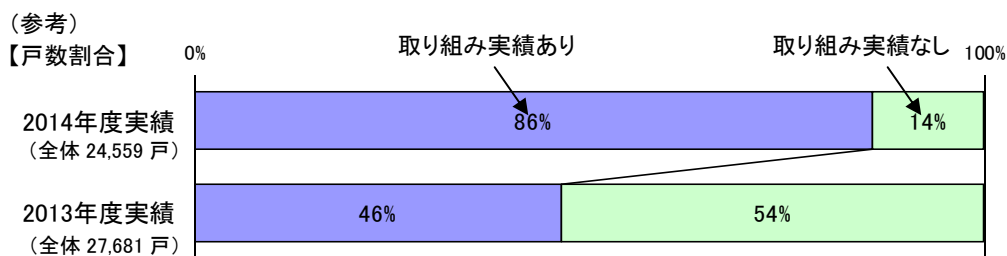
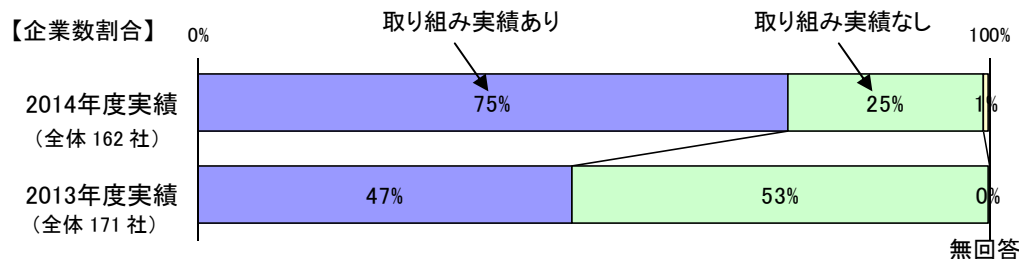
【目標 1】環境に配慮した木材調達の推進

●リサイクル材等の利用

- ・パーティクルボード、繊維板（再生木質ボード）、木粉混入樹脂建材等リサイクル材（再生資材）や木廃材を原料とした木質建材を使用するように配慮している
- ・ランバーの廃材を薪ストーブ用の燃料として使用
- ・ペレットストーブの採用により、木材の有効活用の推進

●木材調達に関する項目

- ・国産材合板・国産材枠組材・地域産材を使用するように配慮している
- ・持続可能な森林から産出された木材を使用するように配慮している
- ・森林認証材をできるだけ使用している
- ・森林認証等の証明書取得を推進している



【2015年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

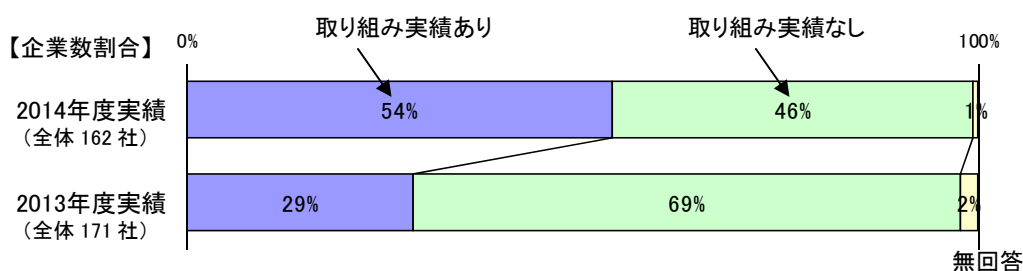
【2014年度の実績】

取り組み実績のある会社は 75%と、前年比 28%増となっている。

戸数割合では 86%と、前年比 40%増となっている。

【目標2】 生物多様性への配慮

- 生物多様性に関する項目
 - ・防蟻剤などを魚毒性の低い薬剤を採用（例：ホウ酸など）
 - ・土壌処理の防蟻剤散布を行っていない
 - ・植栽計画における郷土樹種の採用
 - ・環境に配慮した木材の調達
 - ・セミナー参加など生物多様性に関する情報を収集している
 - ・生物多様性に配慮した活動を行っている
 - ・生物多様性に関するガイドライン・基準等の整備を行っている



【2015年度の目標】

取り組みを推進する（数値目標はなし）。

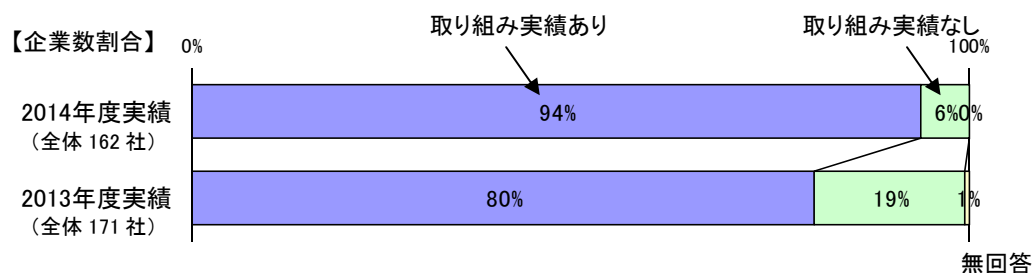
【2014年度の実績】

取り組み実績のある会社は54%と、前年比25%増となっている。

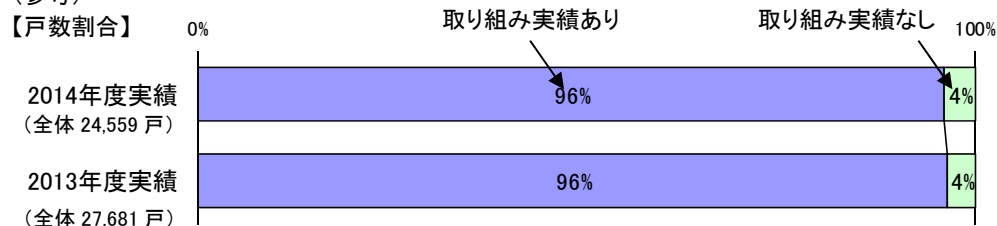
2) 建設現場における廃棄物排出量の削減

【目標1】 廃棄物排出量の削減への取り組み

- 廃棄物排出量削減に関する項目
 - ・現場発生廃棄物発生量の削減対策（プレカット、パネル化等）を行っている
 - ・梱包、包装材料等の削減・再利用を実施している
 - ・余剰材を回収し、他現場で利用している
 - ・排出量削減のための工法（または開発）に取り組んでいる
- 部資材の適正管理に関する項目
 - ・現場で材料が余らないよう、発注量を適正に管理している



(参考)



【2015 年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

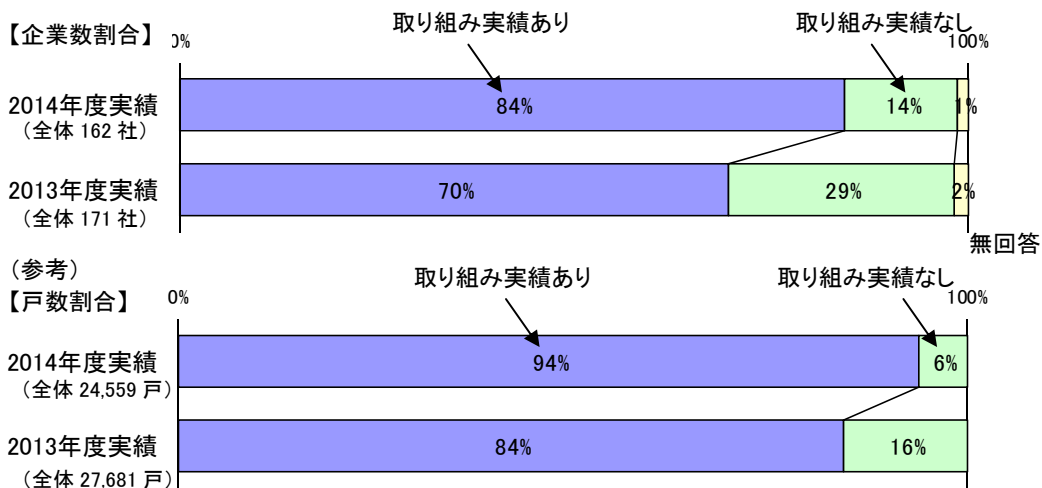
【2014 年度の実績】

取り組み実績のある会社は 94%で、前年比 14%増となっている。
戸数割合では 96%で、前年と同じである。

【目標 2】 廃棄物の再利用を促進し最終処分量を削減

●廃棄物再利用に関する項目

- ・分別を推進している（分別袋詰め、分別コンテナ設置等）。
- ・リサイクル率を向上させ、最終処分廃棄物の量の削減を行っている（大手の中間処分施設への処分の委託など）
- ・現場での廃棄物分別ルールの設定を行い、それを実践している
- ・サーマルリサイクル（ごみを燃やし、その際に発生する熱をエネルギーとして利用すること）を推進している（中間処分施設への委託など）
- ・マテリアルリサイクル（ごみを燃やさず、原料として再利用すること。工場や建築現場で出るごみなどを回収し、利用しやすいように処理をして、新しい製品の材料もしくは原料として使うことを指す）を推進している（中間処分施設への委託など）
- ・外構工事等で再生砕石を活用している



【2015 年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

【2014 年度の実績】

取り組み実績のある会社は 84%で、前年比 14%増である。
戸数割合では 94%で、前年比 10%増となっている。

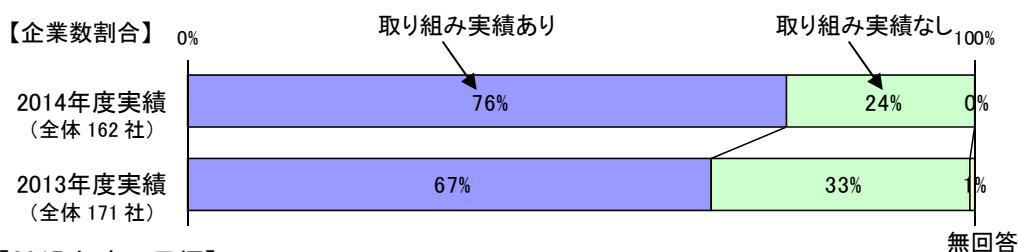
Ⅲ. 環境管理の推進

1) 環境に配慮した経営方針を導入

【目標 1】 環境に配慮した経営

●環境に配慮した経営に関する項目

- ・ 協会メルマガ、配布物等から環境関連法令の動きを把握し、その情報を共有化し、活動に取り組んでいる
- ・ 環境行動の目標を設定し、具体的な計画を策定している
例：廃棄物の削減、建物建設時 CO₂ 削減のためのエコドライブ、自然エネルギーの利用、室内温度の制限、クールビズの導入、節電の促進、廃棄物の削減など
- ・ 目標達成状況、計画の再検討など管理活動等を継続して行っている
- ・ 建築現場や事務所などで、エコマークやグリーン購入対象商品を購入している
例：建築現場 建築ボード類、節水器具、水栓など
事務所など OA 機器、トナーカートリッジ、印刷用紙、文具など



【2015 年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

【2014 年度の実績】

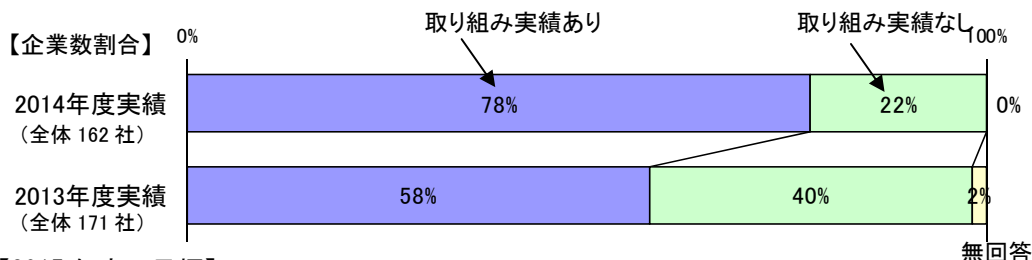
取り組み実績のある会社は 76%で、前年比 9%増となっている。

2) 地域、社会の環境活動への貢献

【目標 1】 地域、社会の環境活動への支援

●地域、社会の環境活動への支援に関する項目

- ・ 現場・事務所・加工場付近の清掃を行っている
- ・ 地域の清掃・リサイクル活動等環境活動に参加している
- ・ 地域の環境活動の支援を行っている
- ・ 地域、社会への貢献のためのイベントを開催している
- ・ その他、社会の環境活動のための支援を行っている
- ・ 分譲事業に高効率給湯器の導入や太陽光の設置を勧めて販売した
- ・ 企業の森参画
- ・ 森林整備活動を行っている
- ・ 国際機関への寄付



【2015 年度の目標】

取り組み実績ありの企業数割合 100%

【2014 年度の実績】

取り組み実績のある会社は 78%で、前年比 20%増である。

[3] 総括

2015 年度 環境行動計画アンケート調査へご協力いただき、誠にありがとうございます。ここに御礼申し上げます。

今回のアンケート調査につきましては、会員企業様からの声を参考に、回答用紙を工夫し、より正確な環境の取組状況を反映できるようにしました。

おかげさまで、多くの環境行動計画目標にて目標値に近づくことができました。

引き続き、会員企業様におかれましては、ツーバイフォー協会の環境行動宣言及び環境行動指針をご理解いただき、環境に優しいツーバイフォー工法の普及に引き続き、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

2015 年 10 月 1 日
環境委員会 委員長
関 弘典

- 1) 今年度以下の目標の達成率が大幅に増加しました。特に C・D 会員の達成率が大幅に向上しました。 ※項目ごとに全体の伸び率、() 内に C・D 会員の伸び率を示す。

- I. 1) 【目標 4】 住まい手・利用者への「省エネルギー建物の住まい方・利用のしかた」の啓発活動 + 28% (+ 33%)
- I. 2) 【目標 1】 建物建設時の CO₂ 排出量削減のための取り組み + 16% (+ 22%)
- I. 2) 【目標 2】 オフィス・モデルハウス等での CO₂ 排出量削減のための取り組み + 18% (+ 25%)
- I. 3) 【目標 1】 長寿命化対策を講じた住宅の普及 + 13% (+ 3%)
- I. 3) 【目標 2】 長寿命化対策を講じた住宅に対するメンテナンス計画の実施 + 29% (+ 34%)
- II. 1) 【目標 1】 環境に配慮した木材調達の推進 + 28% (+ 38%)
- II. 1) 【目標 2】 生物多様性への配慮 + 25% (+ 27%)
- II. 2) 【目標 1】 廃棄物排出量の削減への取り組み + 14% (+ 18%)
- II. 2) 【目標 2】 廃棄物の再利用を促進し最終処分量を削減 + 14% (+ 17%)
- III. 2) 【目標 1】 地域、社会の環境活動への支援 + 20% (+ 26%)

- 2) 2014 年度の実績が前年度を下回ったのは、「自然エネルギー利用システムを導入した建物の普及」で、取組み実績で 4%減少、建物戸数割合で 21%の大幅の減少となりました。

住宅用補助金制度が 2013 年度で終了（一部自治体では個別に実施）したこと、太陽光発電の買取価格が下がってきたこと、いくつかの電力会社が発電設備の接続を保留する措置をとったことなどの影響で、太陽光発電の設置の意欲が低下したことが原因と考えられます。